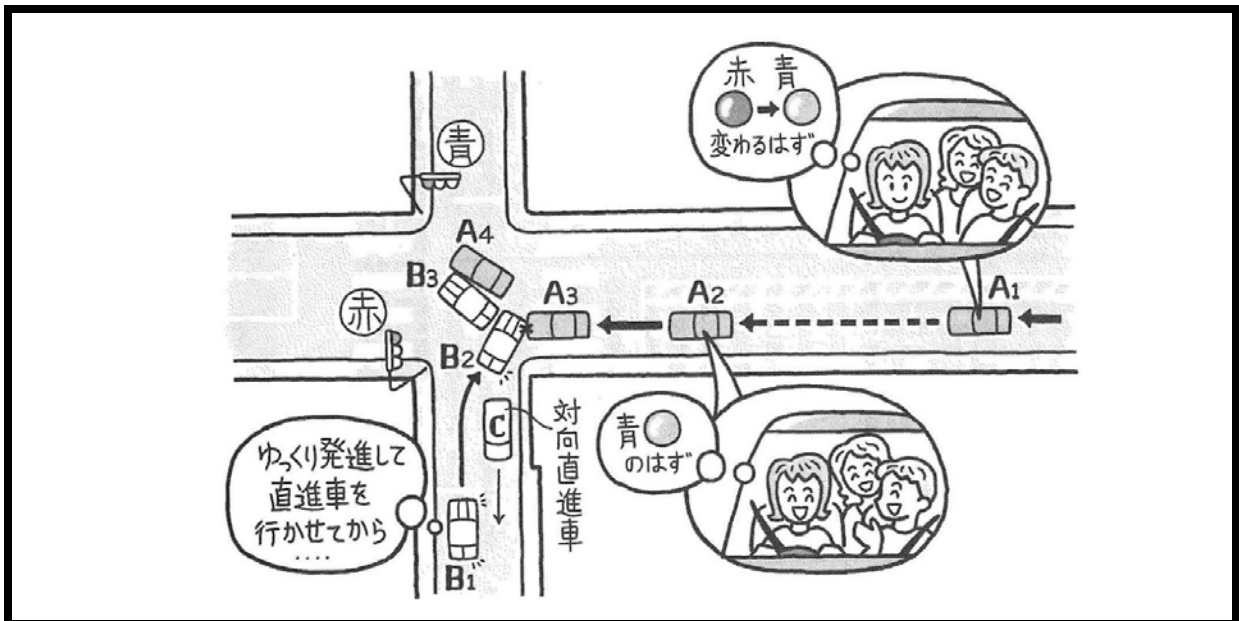


■ 事故の概況



事故類型：出会い頭

発生日時：日曜日 夕方 曇り

当事者A：普通乗用車 20歳代 女性

当事者B：普通乗用車 30歳代 男性

■ 事故の概要

Aは片側一車線の道路を西に向かって走行中、同乗者の友人二人とお喋りをしながら運転していました。Aは前方の交差点に信号があることに気づき、信号はすでに赤だったので「速度を時速約30kmくらいに落として走行すれば、交差点に入る頃には信号は青に変わっているはずだ」と考え、Aはお喋りをしながら速度を落として走行したが、交差点に進入した瞬間に左からきたB車に衝突しました。

一方Bは中央線のない道路を北に向かって走行中、右折予定の交差点に差し掛かったところ、信号が赤だったので停止しました。交差点の向こうの対向車線には直進予定のC車が停止しているのを発見しました。信号が青に変わったのでBはゆっくり発進して先にCを行かせようとしてしました。Cは交差点に進入する手前でB車の脇を通過して行きました。Bが交差点に進入したとたん、右からA車が飛び出してきて回避行動をとることが出来ずに衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aの「ゆっくり進行すれば青に変わってるだろう」という思い込みは安全運転という観点からは大変危険な考え方です。安全を確認せずに走行することは、危険だらけの中で走行することになります。事故を起こさないように走行するには、運転者が安全を確保するという明確な意思をもつことが重要です。

もしAがもっと遅い速度で進行していたら、Bとの衝突は発生しなかったかもしれません。しかしそれでは、信号を無事故で通過することが『いちかばちかの挑戦』になってしまいます。安全はいちかばちかの挑戦であってはなりません。運転免許を持っていると言うことは、常に安全に運転することを求められているということです。